

## 8 下部食道・食道接合部癌に対する経裂孔的根治的食道切除術—その手技と成績—

神田 達夫・小杉 伸一・鈴木 力\*

矢島 和人・石川 卓・畠山 勝義

新潟大学大学院医歯学総合研究科

消化器・一般外科学分野

新潟大学医学部 保健学科\*

【目的】教室では、頸部・上縦隔郭清を省略した経裂孔的アプローチによる根治的食道切除術を1994年より下部食道癌に対して行ってきた。本術式の治療成績を報告する。

【患者】2008年12月までに本術式を行った胸部下部食道・食道胃接合部癌患者61名

【選択基準】術前診断で腫瘍の局在が下部食道に限局し、臨床的に縦隔リンパ節転移陰性と診断された患者。平均年齢は64.7歳(35～83歳)。

【成績】手術時間と出血量の中央値は285分、

425mlであった。24時間以上の呼吸器管理を要したものは4名(7%)のみであり、呼吸器合併症は5名(8%)と低率であった。在院死亡は認めない。全61名の累積5年生存率は51.3%であり、開胸食道切除術と同等であった。

【結論】経裂孔的根治的食道切除術は、安全で周術期管理を容易にする。長期成績も開胸手術に劣らず、胸部下部食道癌手術の一選択肢になると思われる。

## II. 特別講演

食道がん集学的治療：標準化と個別化の方向性

慶應義塾大学医学部外科学 教授

北川 雄 光